

菊川市に住む相羽春一さんは3月に100歳になりましたが、とてもお元気です。そんな相羽さんの暮らしぶりを拝見してきました。

朝目が覚めるとそのままベッドの上で体中をマッサージするそうです。それから腹筋、これくらいできますと椅子の上でも実演。



DSC01474



DSC01474

食事は朝10種類の野菜の入った味噌汁を食べます。味噌汁というより野菜の味噌煮に近く、たくさん作るので昼も食べるとか。牛乳にきな粉まぜて飲みます。

夜だけ魚や肉を食べます。よく噛みます。59歳で胃を手術してから30回以上噛むそうです。お酒を1合弱飲みながら煮干しを10本ほど食べる。歯も18本はまだ自分の歯があります。

体もこんなに柔らかいです。

耳は補聴器を使っていますが、視力は眼鏡をしません。私が渡した名刺の名前の小さいルビが読めません。2年前に奥さんを亡くされて針仕事もしますが、夜でも縫物針に糸を通すこともできます。70代のとき眼鏡を使ったこともあるそうですが、今必要ないそうです。



DSC01479

とにかく何でも自分で作ってきました。何かをみるとどう作ったのかが気になり、観察し自分で作ってきました。お話しする相羽さんの後ろにある大きなひょうたんも自分で育てたひょうたんに自分で絵や言葉をかきました。



[DSC01476](#)

軍隊にはドイツ製のミシンもあったので、それを使っていたので、奥さんより早くミシンを使えるようになっていました。

戦前、軍隊にいたとき馬の爪を切り蹄鉄をはめるという仕事の経験が、実家に帰って農業を継いだ時、牛を使って田を耕していた時代でしたので、近所の牛の爪を切り蹄鉄をはめるということを頼まれてやってあげたそうです。

昭和30年代から機械化され牛を使わなくなると弟さんが大工と左官屋だったのでそれを手伝いました。建築ブームだったので平日は建築業、土日に農業をしました。器用な相羽さんだからこそ、できたことだと思います。

家の横の作業小屋には今まで作ってこられた木工品がたくさんあります。また今では見かけなくなった蓑や草鞋もありました。相羽さんが着て見せてくれました。私も着せてもらいましたが、けっこう重いのです。いまでも時折教えてほしいと遠くから来られるそうです。



[DSC01486](#)



[DSC01487](#)



[DSC01492](#)

家にはお掃除ロボットやランニングマシンがありました。古いものを大切にしながら、新しいものに対する好奇心は今も健在です。

どんな作りなのか不思議で、その機能に感心もしているそうです。お掃除ロボットは便利だし、ランニングマシンは雨の日運動不足になりそうなとき使っているそうです。

車に乗って畑に行っていた相羽さん、100歳になったので自動車免許を返上して、不便になったそうです。「遊びが苦手でね〜」「ゲートボールもやれば、上手にできると思うけんがやりたいと思わない」と笑う相羽さんは農業やものづくりが大好きなようです。

今は車の代わりにシニアカーです。車ほど農作業器具が積めないのが残念なようですが、それでもこれに

乗って畑に行っています。

お元気な相羽さんには100歳という年齢を気にせず、今まで通りの生活をつづけてほしいと思いました。



[DSC01490](#)  
小笠・榛南地区 生きがい特派員 荒木弘子